

(学年) 1～4 学年、(教科・科目) 国語・古典A

一斉学習

説話の展開、内容に興味をもち、登場人物の特徴を理解し、表現する。

(古文編『宇治拾遺物語』「絵仏師の執心」)

(本時のねらい)

「古典A」は、「国語総合」で入門編の古文と漢文を学び、ある程度古典に触れた経験をもつ生徒が選択する科目である。しかし、本校の場合は、授業時数が限られているので、「国語総合」で古典を学ぶ時間は僅かである。よって、「古典A」の前半の授業は、入門編の教材を用いて古典に親しむ必要があると考える。本時は、歴史的仮名遣いの読み方など、古文の規則を理解することを第一のねらいとした。

『宇治拾遺物語』は、197話から成る仏教説話で、各話が一話完結型で比較的理解しやすいことから、入門編の教材として適切であると言える。今回取り上げた「絵仏師の執心」は、芥川龍之介が『地獄変』という小説の素材とした作品であり、二作品を読み比べることで芥川龍之介がどのような工夫をしたのかがわかり、発展的な学習となることが期待できる。次時の準備として、本時では、主人公である良秀の人物像を理解することを第二のねらいとした。

(ICT活用方法)

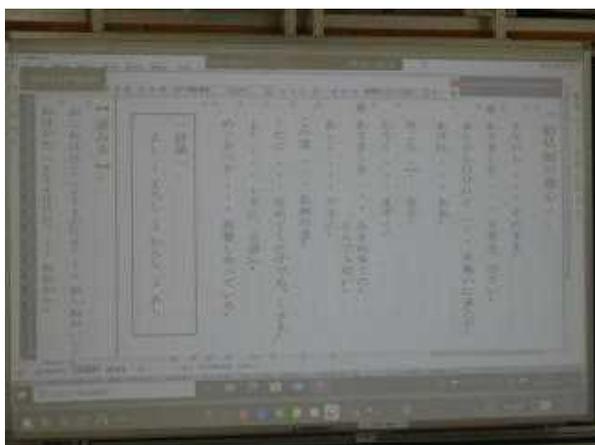
限られた授業時間を有効に使うため、電子黒板を用いて、本文や語句の意味、歴史的仮名遣いの読み方などを映し、板書する時間を省いた。本文を映すことで、説明の際にどの部分の説明であるのかが生徒にわかりやすくなり、内容理解の助けとなった。また、教科書と便覧などの資料を用いての説明と比べると、短時間でより多くの事柄を伝えることができるため、ICT機器を用いることで効率的に説明することができた。

(本時の展開)

時間	学 習 活 動	指 導 事 項	I C T活用方法
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・『宇治拾遺物語』について知る。 ・教科書の解説を読み、作品の種類と特徴、成立した時代などを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説話集の特徴を説明する。 ・一話完結の短い話の集まりであることを説明する。 ・説話集が成立した時代背景を説明する。 	
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・古文の規則について学ぶ。 ・ヤ行は「やいゆえよ」ワ行は「わゐうゑを」である。 ・小さい「や・ゆ・よ・つ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板を用いて本文や語句の意味を示し、効率的に情報を伝える。 ・古文の規則について学んだ後、テキストの問題をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が内容に興味をもち、効率的に学習できるよう、電子黒板を用いて本文や重要語句の意味、歴史的仮名遣いの読み方などを

	<p>は普通の大ききで書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語中と語尾のハ行はワ行に読む。 ・母音が重なったときは特別な読み方をする。 ・教員の後に続いて本文を音読する。 ・主人公 良秀の人物像を理解する。 ・本文を読み、現代語訳しながら、良秀の人間性を掴む。 	<p>よう指示し、机間指導で点検する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く終えた生徒には追加の問題プリントを渡し、個別に指導する。 ・歴史的仮名遣いの発音に注意しながら読むよう指示する。 ・電子黒板に映した本文で、主人公 良秀の人間性が表れている部分に線を引く。 	<p>提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後ろの席からでも見えるよう大きな文字で映し、レイアウトも工夫する。
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめを聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時に学んだことを今後の古典学習に生かせるよう意識づけをする。 	

(授業の様子)



重要語句の意味・歴史的仮名遣いの読み方などの説明



授業の様子

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

限られた時間の中で多くの事柄を効率よく伝えるには、ICT機器の使用は非常に有効である。授業中俯きがちな生徒も前を向くことが多くなり、コミュニケーションがとりやすくなったと思う。

201 国_古典A_1_301 一斉_説話の展開，内容に興味をもち，登場人物の特徴を理解し，表現する。

現時点では作成した資料を映して説明するだけであるが、電子黒板には多くの機能があり、より効率的でわかりやすい授業を行うためには、様々な機能を使いこなす知識や技術を身に付ける必要がある。

また、今後は、生徒に貸与されている1人1台端末の活用方法も学んでいきたい。